



耐震補強を行った小学校の校舎

学んだことを 地域に活かす

多度津町教育委員会 教育課 学校教育係 主事

津島 知彦 つしま ともひこ



私にとっては、ある意味願った
り叶ったりの配属なのかもしれま
せん。大学時代は、総合科学部 山本
真由美教授の研究室に所属し、特
別支援教育や発達障害の研究をし
ていたので、自分の知識が業務遂
行にあたって、とても役立ってい
ると感じています。以前に比べる
と、一般の方にも、特別支援や発達
障害への認識はかなり広がりまし
た。しかし、未だに誤解されている
方やご存知ない方も多く、関係機
関と連携をしながら粘り強く関わ
っていかねばいけないと感じて
います。

在学中の経験が 活かされていると思いつく

「一人でも多くの人の役に立て
る仕事をしたい。そして、より現場
に近い所で」と思ったのが、地方
公務員を目指したきっかけでし
た。現在は、教育委員会で、学校施
設管理・情報教育・特別支援教育を
主に担当しています。まだまだ分
からないことが多く、迷惑をかけ
ることのほうが多いですが、先輩
や上司の方に教えてもらいながら
仕事をしています。

現在の担当の仕事紹介



幼稚園でのカレーパーティー

「在学中に経験しておけば
よかったと思うこと」
すばり、旅行です。卒業前に友人
と海外旅行に行きました。全員が
初海外で、ハブニングも色々あり
ましたが、全く知らない土地で知
らない人と出会うという事は、自

分が思った以上に得る事が多かつ
たです。職種にもよるとは思いま
すが、仕事に就くと、自由な時間がと
れない事が多いです。時間がない
と出来ないような体験は是非して
おくべきだと思いますし、必ず、活
きた体験になると思います。

就職活動の体験談

「就職活動はあくまで手段であ
って、目的ではない」ということ
でしょうか。どこかの企業や団体
に入ったら、どのような仕事をし
たのか、自分の知識が活用できる
のか、自分自身の将来像や方向性
を考えて活動をすべきだと思いま
す。そうすれば必ず、するべき事
が見えてくるのではないでしょ
うか？」



中学校の先生との花見

プロフィール

- 1986年5月 香川県坂出市生まれ
- 1999年3月 多度津町立多度津小学校卒業
- 2005年3月 香川県大手前中学・高等学校卒業
- 2009年3月 徳島大学総合科学部人間社会学科
人間行動コース 心理学サブコース卒業
- 2009年4月 多度津町役場入庁
教育委員会に勤務

特徴を活かし、広い視野での学び



山形大学 理事・副学長
山形大学大学院理工学研究科 教授

小山 清人 こやま きよひと

私は授業の開始時に小テストを
し、自分で回収します。そうす
ると、学生さんの名前と座っている
場所との関係が頭の中に入るので
す。その回収した小テストを見な
がら、授業中に頻繁に、学生さん

「1996年に、当時の国立大
で医学部出身の学長達が集ま
つた。その関係は5大学間連携協定
です。」

「徳島大学の在学生のみならず、
是非、徳島大学で学べる利点を認
識し、同時に他大学で学べる可能
性も自覚し、頑張ってください。」
そういえば、今放映している
NHK朝の連続テレビ小説の舞台
は徳島です。じれったいほど飛躍
がないが、気がつくくと、カメの如

「徳島の「四国放送」。私が子供の
頃に見ていたテレビの放送局で
す。私の出身は和歌山県の潮岬の
近く。「なぜ和歌山放送でなくて、
徳島の四国放送なのかな」と思い
ながら、テレビを見ていました。そ
して当然のごとく、徳島にそこが
れの気持ちを持って育ちました。
と言いつつ、40年ほど前に、山形
大学を受験しました。山形に最初
に着いたときには、地元の人に道
を聞いても、方言をほとんど理解
できず、身振り手振りで教わって
宿に辿りつきました。朝食にでた
納豆をどう食べて良いかも分から
ず、異国にいる気分を味わいまし
た。それがどうしたものか、以来、
山形大学にずっとお世話になっ
て、現在に至っています。」

「あるとき、クラスで、学生に卒業
後の就職希望地域を聞きました。
すると、徳島県内への就職希望が
一番多かったのです。驚きました。
山形大学では、首都圏への就職が
一番多く、県内への就職は15%程
度です。他地域へのチャレンジ精
神は山形大学の学生の方が強い
が、元氣良くコミュニケーション
ができるのが徳島大学の学生の強
みです。地域が異なると、学生気質
も変わります。徳島大学生はさら
に異文化に目を向けて、自分の良
いところを伸ばして下さい。」

「徳島大学の卒業研究をさらに深化
させたいと、山形大学に来ました。
そして、我々の研究室で新しい研
究手法を一年余りで修得しまし
た。修士課程の後半は徳島大学の
出身研究室で修士論文の研究でし
た。修士論文の審査は山形大学で
受け、山形大学から学位を取得し、
地元の香川県の企業に就職しまし
た。異なる大学の得意な分野を利
用して、学生さんが勉強できる環
境はすでにできています。」

プロフィール

- 1972年 山形大学工学部繊維工学科 卒業
- 1974年 山形大学大学院工学研究科修士課程（繊維高分子工学専攻）修了
- 1974年 山形大学 助手 工学部
- 1982年 工学博士（東京工業大学）取得
- 1987年 山形大学 助教授 工学部
- 1992年 山形大学 教授 工学部
- 1995年 山形大学 附属図書館工学部分館長
- 1998年 山形大学 評議員
- 1999年 山形大学大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
- 2004年 山形大学 工学部長・理工学研究科長
- 2007年 山形大学 理事・副学長

「質問をします。なんと、徳島大学の
学生さん達からは、どの人からも
オリジナリティーのある答えが、
元氣の良い声で返ってきました。
山形大学では、このようにはいき
ません。」

「米沢は盆地で、人はエネルギー
をため込んで容易に放出しません
が、徳島大学生は、海の人たちで、
開放的なのかなと思えました。こ
の反応によって、私は元氣をもら
いました。それ以来、徳島大学での
講義が楽しみでした。」

「そんな中で徳島大学と山形大学
が共同で教育・研究した例を私も
経験しました。徳島大学工学部を
出て、山形大学理工学研究科の修
士課程に入学した学生さんです。
彼は学部の卒業研究をさらに深化
させたいと、山形大学に来ました。

「く、一歩一歩確実に前に進んでい
ます。これは、徳島というよりドラ
マの性格なのかもしれないが、
印象に残っている言葉がありま
す。」

「遅くても、カメは必ずゴールす
る。」